



成瀬ダムの治水効果は極めて限定的



乙第65号証の2

資料①

成瀬ダムの治水効果を算出した計算資料

洪水名 <sup>※1</sup>	降雨型	実績規模（降雨実績）における効果率（推定）			
		梅川地点の推定流量 (m <sup>3</sup> /s) <sup>※2</sup>		効果流量 (m <sup>3</sup> /s)	効果率 (%)
		成瀬ダムなし ①	成瀬ダムあり ②		
S19.07	全流域型	6,171	6,076	95	1.5%
S22.07	全流域型	8,497	8,470	27	0.3%
S22.08	全流域型	4,035	4,031	5	0.1%
S30.06	全流域型	3,984	3,944	40	1.0%
S40.07	全流域型	2,861	2,853	8	0.3%
S41.07	玉川流域型	2,267	2,263	4	0.2%
S44.07	本川上流域型	4,579	4,506	73	1.6%
S47.07	玉川流域型	3,758	3,752	7	0.2%
S54.08	玉川流域型	2,467	2,437	29	1.2%
S56.08	本川上流域型	3,076	2,930	146	4.7%
S62.08	全流域型	3,833	3,738	95	2.5%
H14.08	玉川流域型	3,172	3,160	12	0.4%
H19.09	玉川流域型	4,460	4,456	4	0.1%

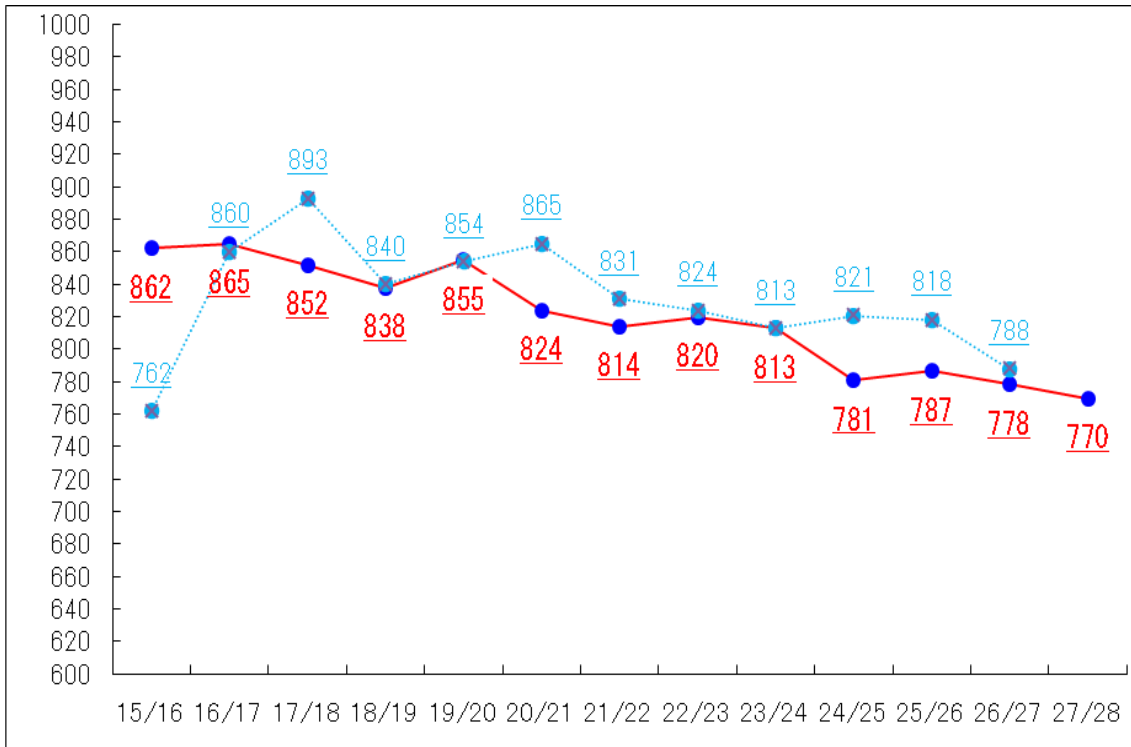
※1 「雄物川水系河川整備基本方針」において検討の対象とした平成18年までの12洪水と、平成19年に以降に梅川地点において、はん濫注意水位を超えた1洪水を対象とした。

※2 梅川地点の流量は、実績洪水時の降雨の地域・時間分布の違いのみに着目し、その他の条件については、全て同一と仮定したうえで、河道のはん濫がない状態で現時点の既設6ダムがあったものとして算定した推定値である。

成瀬ダムは、雄物川水系の最南東部に造られるために、雄物川の流域面積に対する成瀬ダムの集水面積はわずか2%未満に過ぎません。国交省が計算した治水効果を算出した資料（←）でも、0.1～4.7%というものです。ほとんどが2%未満で、これでは巨費を投じる割にはあまりにも低い効果しかなく、中下流域の洪水にはほとんど役に立ちません。

## 米余りで成瀬ダムは必要ない・・・少子高齢化で自治体消滅の時代に

■米の生産量（青線）と消費量の推移（この10年で消費が1割も減っている）



■秋田県における水田転作率の推移（平成以降5年おきと直近のデータを示した）

平成元年	5年	10年	15年	20年	25年	27年
21.3%	19.2%	30.1%	34.3%	35.1%	38.7%	42.6%

■水は足りないのではなく・・・

### 平鹿平野地区 幹線用水路型式の検討

H13.9.18

#### 1. 本地区の用水管理の実態

本事業は、昭和21年に着工し昭和55年に完了した国営雄物川筋農業水利事業により造成された頭首工、用水路等用水施設の改修と用水管理施設を新設し、合理的な用水配分と維持管理等の軽減を図るものである。

本地区の用水利用形態は、上流部で優先取水され、下流部ではほとんど利用できない極めて不均衡な状況にある。

また、用水管理は、成瀬、皆瀬頭首工は取水量だけの管理であり、幹線用水路は土地改良区から委託された水路監視人が管理しているのが実態である。

東北農政局が、新しい用水路の形式を検討した文書（←）。

「上流部で優先取水され、下流部ではほとんどで利用できない極めて不均衡な状況」を直すため全国にも類例のない複線水路を造った（↓）。

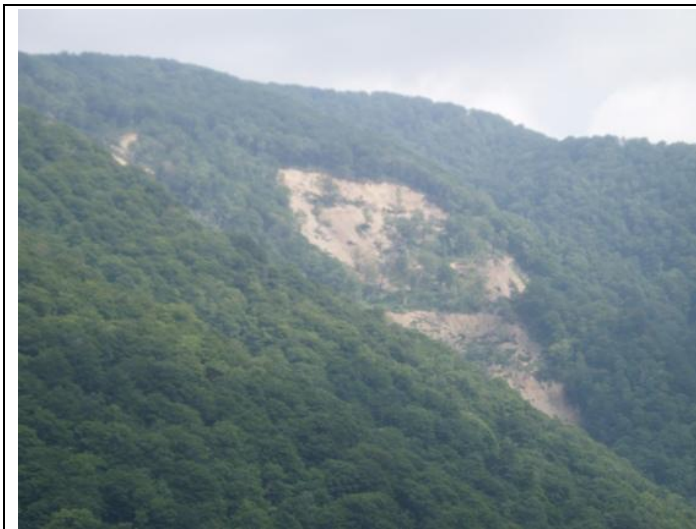




現地には断層破碎帯が・・・新しい耐震設計がまだできていない！



典型的な地滑り地形がみられるダム予定地左岸（↑）  
堤体部で破碎帯が水を含んでほとんど粘土状になっている（→）



岩手・宮城内陸地震で崩落（木賊沢）



東日本大震災で崩落した現場（北ノ俣沢）

阪神・淡路大震災の教訓から国は巨大建造物に対して、より厳しい耐震基準で本体設計しなければなりません。しかし、以上のような危うい地盤状況を反映してか、工事開始から10年経っても新しい本体設計はできていません。直ちにお金の無駄遣いはやめるべきです。

■成瀬ダムの進捗状況■ ダム堤体を迂回する付替道路（道路、トンネル、橋）が完成、上流からの水を下流に誘導する仮排水トンネルができ、現在は本体工事に係わる工事用道路の建設を行っているところです。ロックフィルダムなので堤体に使う岩石を現地調達し、ふるいにかける作業場の建設も行っています。平成26年度末までの予算の消化は、平成26年度末では約375億円となります。成瀬ダムの事業費は1530億円ですから、平成26年度末での進捗率は24.5%となります。